

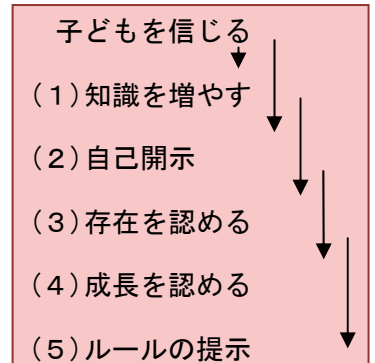
第1章 学級担任として大切にしたいこと

子どもの自立のために社会のルールを教えることは教師の大切な仕事です。ルールを教えるためには、子どもと信頼関係を築くことが必要です。どのように信頼関係を築き、ルールを教えればよいのか考えてみましょう。

信頼関係とルールをつくる道すじ

子どもを信じる ー成長の力は無限ー

子どもは「よくなりたい、できるようになりたい」という欲求を持っています。まだ見えていない秘められた可能性を伸ばすことが教師の役割です。



(1) 行動の背景を理解する知識を増やす ーゆとりをもつー

子どもの言葉や行動の背景を理解する知識を持っておくと、気持ちにゆとりをもって対応することができます。特にネガティブな関わり方を見せる子どもに安定して関わるためには、この知識はとても役に立つでしょう。また、集団の実態把握をする際にも有効です。

子どもが見せる表面的な言動のみをとらえて対応すると、子どもが望んでいない関わり方をしてしまい、かえって関係を悪化させてしまいます。一人の子どもの対応のために全体指導のペースが乱れ、学級全体への指導が行き届きにくくなる場合があります。

うまくいった関わり方は続けましょう。うまくいかない場合は、別の方法を探しましょう。

～行動の背景を知る3つの視点～

(1) 生育歴

育てられた人、家族構成等、どのように育てられたかを知ることは、その子が他者に対してどのように関わるか知る手掛かりになります。自分が育てられたように他者に関わろうとする傾向があるからです。厳しい、又は冷たい環境で育てられた子どもへは、優しく、温かく接するとよいでしょう。

(2) 人との関わり方

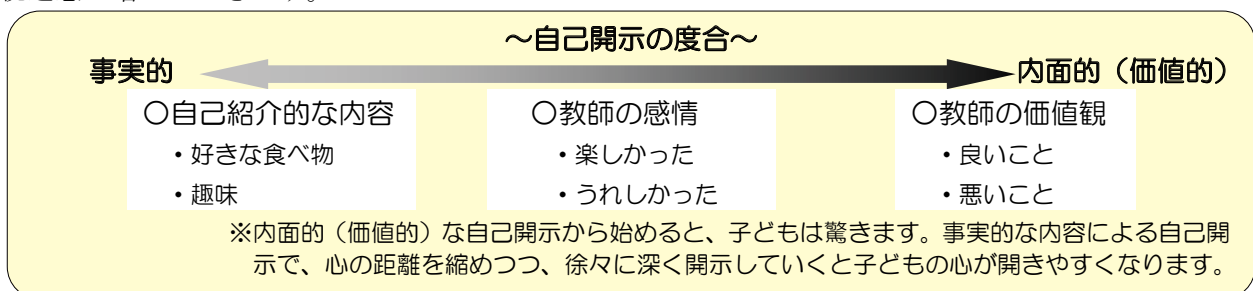
親との安定したつながり（愛着）が持ちにくい子ほど自分を守ろうとして、人に対して攻撃的になるといわれています。教師に反抗的な態度を見せる子どもは、愛情や安心感を欲しがっていると予想されます。いつでも落ち着いて許容的に接するとよいでしょう。

(3) 発達障がい

学習上の困難さ、突飛な行動、状況から外れた行動等、教師から見れば不適切な行動が、実は障がい等に起因していることがあります。子どもの学習面や行動面の困り感に寄り添って指導をするために、特別支援教育主任やスクールカウンセラー、LD等専門員等に助言を求め、特性に応じた指導をしましょう。

(2) 子どもと向き合う（自己開示） ー教師の心を開き、子どもの心を開くー

信頼関係を築く第一歩は互いに心を開き合うことです。子どもの心を開くためには、まず、教師自身が子どもに対して自分の心を開くことが必要です。そのためには、教師の考え方や思いを伝えて、「先生はみんなの味方」であることを伝えます。自己開示する情報がより深くなるほど教師への親近感が増していきます。



(3) 子どもの存在を認める ―君ってすごいね!―

子どもは温かく見守られながら心豊かに成長していくものです。守られるとは「この世に1つしかない大切な存在(命)」として尊重してもらうことではないでしょうか。そのために、性格や特技など子どもの特徴を認めましょう。「先生が自分を認めてくれた」と感じると、子どもたちは教師に信頼感を抱くようになります。

～存在を認める4つのポイント～

- ①**性格**…どんな性格でも、見方を変えてプラスに捉え直して伝えることが性格を認めることになります。
- ②**特技**…足が速い、字がきれい、絵が上手など、どんなに小さなことでも見逃さず認めましょう。
- ③**感情**…どんな感情でも、「〇〇と感じたんだね」と受け止めることが感情を認めることになります。
- ④**思考**…今の考えや思いに至った過程を聞くことが思考を認めることになります。

(4) 子どもの成長を認める ―やったね!できたね!―

どの子も「自分でしたい、できるようになりたい」と力が伸びていくことを願っています。そのために教師は、子どもが「自分の力が伸びた、伸びる可能性が感じられた」と感じられるように「成果」と「努力」を認め、さらに力を伸ばすための支援を行いましょう。

「できた!」と達成感を感じると、「また自分でやってみよう」という自立への芽生えが見られるようになります。また、教師への信頼感がより強くなります。

～成果と努力を認めるポイント～

- **成果を認める**…どんな小さなことでも、できるようになったことを見逃さず認めます。
- **努力を認める**…失敗しても、できるようになろうとした努力の過程を認めます。

～子どもの力を伸ばす4つのコツ～

- ①**モデリング**…教師や友達の手本を見せること。意欲を高め練習の効果が上がります。
- ②**説明**…留意点を言葉で伝えること。心の言葉に記憶させることで、自分で修正しやすくなります。
※視覚よりも言語の情報が理解しやすい子どももいます。
- ③**サポート**…実態に応じて支援すること。縁の下の力持ちになって、「できた!」へ導きます。
- ④**称賛**…成果や努力をほめ、達成感が感じられるようにすること。次への意欲につながります。

(5) 子どもの模範となる行動をする ―はじめをつける―

子どもは失敗を経験しながら規則や規範を学びます。その際に手本となるのは身近な大人の言葉や行動です。教師は、他者の心と体を傷つけたり不快にしたりする言葉や行動を見逃さず指摘し、適切な行動を示す手本となる必要があります。そのために私たち教師は日頃から、良いことは良い、悪いことは悪いと判断できる道徳的な価値観を養っておくことが大切です。

～ルールを守らせるには“教師への信頼感”が必要～

(4)までの段階を通して、子どもが教師に対して信頼感を持つようになると、教師の言葉や行動を真似しようとします。大好きな人の言うことは誰でも聞きたいと思う心理です。教師が規則や規範を守る手本となるためには、子どもとの間に信頼関係を築くことがとても大切なのです。

※信頼感がない状態で規則や規範を守らせようとする、「言われないと守らない」「言われると反発する」などの学級が崩れる原因となります。